



お茶の歴史年表

時代	日本の歴史上のできごと	日本のお茶の歴史	世界のお茶の歴史
縄文時代			紀元前 2700年ごろ 中国 (ちゅうごく) 薬としてのお茶の始まり。 中国でお茶の木が見つかりました。 このころのお茶は薬として食べられていたそうです。
弥生時代	239年 邪馬台国の卑弥呼が中国につかいを送る。		紀元前 59年ごろ 中国 (ちゅうごく) 飲み物としてのお茶の始まり。 中国の本に、お茶を飲んだことが書かれています。
古墳時代			
飛鳥時代	おぼろさんなどが中国に渡るようになる。		
奈良時代			760年ごろ 中国 (ちゅうごく) 世界で最も古いお茶の専門書が書かれる。 中国でお茶の歴史やお茶をいれる道具、産地などをまとめた『茶経』という本が書かれました。
平安時代	794年 平安京に都をうつす	805年 おぼろさんにより、中国からお茶が伝わる。 つかいとして中国に渡っていた最澄、空海などのおぼろさんたちが、お茶を伝えました。このころの本に、お茶のことが書かれています。	



お茶の歴史年表

時代	日本の歴史上のできごと	日本のお茶の歴史	世界のお茶の歴史
へいあんじだい 平安時代		おぼうさんや貴族などが お茶を飲むようになる。 このころのお茶は、おぼうさんや 貴族など一部の人がだけが飲むこ とができる、とても貴重な飲み物で した。 894年 中国からお茶が入ってこなくなる。 中国へのつかいを送らなくなり、 お茶が入ってこなくなりました。	
かまくらじだい 鎌倉時代	1192年 源頼朝が、征夷大將軍になる。 1336年ころ 後醍醐天皇の南朝、足利尊氏が むかえた新しい天皇による 北朝が対立する。	1191年 お茶が作られ始める。 中国に渡っていた栄西禪師という おぼうさんによってお茶が作られ 始めました。お茶の木は今の佐賀県 に植えられ、その後は京都府や 三重県、静岡県などに広まりまし た。 いろいろな地域にお茶畑が 作られるようになる。 ※鎌倉幕府の將軍である 源実朝は、お茶を飲んだ ことで、体の具合が良く なったといわれています。 1214年ころ 最も古いお茶の専門書が 書かれ、薬としての お茶が知られる。 栄西禪師によって、お茶の種類や、 お茶が体に良いことなどをまとめ た『喫茶養生記』という本が書か れました。	



お茶の歴史年表

時代	日本の歴史上のできごと	日本のお茶の歴史	世界のお茶の歴史
鎌倉時代		貴族をはじめ武士などがお茶を飲むようになる。	
室町時代	能やきょう言が人気になる。		中国 ウーロン茶ができる。 中国でウーロン茶が作られるようになります。
安土桃山時代	1590年 豊臣秀吉が天下を統一する。 1600年 関ヶ原の戦い。	千利休によって、お茶が日本の文化の中心になる。 豊臣秀吉に仕えた千利休などによって、茶道という日本だけの文化ができました。	1596年 オランダ 日本のお茶がしょうかいされる。 オランダの探検家を書いた本に、日本のお茶がしょうかいされています。この後、オランダに入ってきたヨーロッパで初めてのお茶は、日本のお茶だったともわれています。
江戸時代	1603年 徳川家康が江戸幕府を開く。	お茶がたくさん作られるようになる。 1654年 せん茶ができて、みんながお茶を飲むようになる。 簡単にお茶を飲む方法として、きゅうすでお茶をいれる方法が中国から伝わり、みんながお茶を楽しむようになりました。今のせん茶に近い方法ですが、茶色っぽい色をしていました。	ヨーロッパ 一部の人々だけがお茶を飲むようになる。 ヨーロッパでもお茶を飲むようになりましたが、このころのお茶は一部の人々だけが飲むことができる、とても貴重な飲み物でした。 1637年 イギリス 初めてお茶が送られる。 中国からイギリスへ初めてお茶が送られるようになります。この20年ほど後には、みんながお茶を飲むことができるお店もできました。



じだい 時代	にほん れきしじょう 日本の歴史上のできごと	にほん ちゃ れきし 日本のお茶の歴史	せかい ちゃ れきし 世界のお茶の歴史
えどじだい 江戸時代	1858年 がっしゅうこく アメリカ合衆国と にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく むす 日米修好通商条約を結ぶ。 1867年 えどばくふ 江戸幕府がおわる。	1738年 ちゃ つく かた お茶の作り方が いま おな 今とほぼ同じになる。 きょうとふ うじ いま ちゃ 京都府の宇治で今のせん茶とほ おな ほうほう ちゃ つく はじ ほぼ同じ方法のお茶が作られ始め ました。その味やかおり、あざや みどりいろ にんき かな緑色が人気となり、いろいろ ちいき ひろ な地域に広まっていきました。 ちゃ ちいき お茶がいろいろな地域から かいがい おく 海外に送られるようになる。	1788年 インド ちゃ つた お茶が伝わる。 1810年ころ 台湾 (たいわん) ちゃ つた お茶が伝わる。 1840年ころ イギリス アフタヌーンティーの ぶんか はじ 文化が始まる。 こうちゃ いっしょ た 紅茶と一緒におかしなどを食べる アフタヌーンティーという文化が はじ イギリスで始まりました。
めいじじだい 明治時代	1902年 にちえいどうめい むす 日英同盟が結ばれる。	きかい りよう ちゃ 機械を利用して、お茶が つく 作られるようになる。 ちゃ かいがい おく お茶が海外にたくさん送られるよ すこ よ ちゃ つく うになると、少しでも良いお茶の作 かた かんが きかい りよう り方を考えたり、機械を利用する ようになりました。	1896年ころ イギリス ティーバッグに入った こうちゃ つく 紅茶が作られる。 世界 (せかい) せかいじゅう ちゃ 世界中でお茶が 飲まれるようになる。
たいしょうじだい 大正時代			
しょうわじだい 昭和時代		ひとり ちゃ 1人あたりのお茶の しょうひりょう へ 消費量が減る。 1981年 い ちゃ カン入りのウーロン茶が はつぱい 発売される。 せかい はじ い 世界で初めてカン入りのウーロン ちゃ はつぱい 茶が発売されました。	



お茶の歴史年表

時代	日本の歴史上のできごと	日本のお茶の歴史	世界のお茶の歴史
昭和時代		1985年 カン入りのせん茶が 発売される。 世界で初めてカン入りのせん茶 が発売されました。これにより、 お茶は日本人にとって、いつでも どこでも飲める、より身近な飲み 物になりました。	
平成		1990年 ペットボトル入りの緑茶が 発売される。 世界で初めてペットボトル入りの 緑茶が発売されました。	1997年 中国(ちゅうごく) ペットボトル入りのお茶が 発売される。 ペットボトル入りのウーロン茶が 中国で発売されました。今では中国 のどこでも買うことができます。 日本との違いは、砂糖入りのあまい お茶が多いこと。中国では、家でい れるお茶とは別のもので、ジュース のように飲まれています。